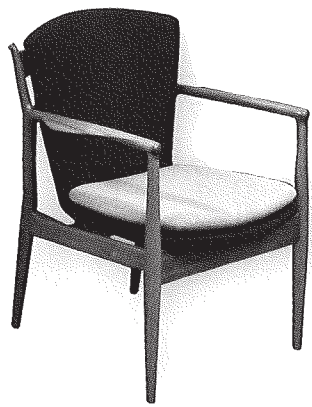


今や製品はNY国連本部にも



2012年秋、米ニューヨークにある国連本部の「信託統治理事会会議場」に、朝日相扶製作所が手がけた椅子が260脚納められました(=写真)。この事実は新聞等多くのメディアで取り上げられ、同社の高い技術力が世界中に発信されることとなりました。

この会議場は1950年代はじめ、デンマーク出身の家具デザイナー、フィン・ユール(1912-1989)によってデザインされました。以後、数回改装が行われていますが、ほとんどはデンマーク政府の国家プロジェクトで行われています。それは今回も同様で、自国が持つデザイン力の発信を目的としています。

朝日相扶社は自社ブランドを持たない、OEM(相手先ブランドによる生産)の会社で、この事業はフィン氏デザインの家具の製造・販売を手がける同国の「ワン・コレクション社」からの依頼。独特な曲線が多く、精密な木材加工技術が必要とする椅子だけに、この分野では特に高い知名度を誇る同社に白羽の矢が立ったものです。

鈴木町長から名誉町民証を受け取る阿部宗一郎氏



大正12年生まれの阿部氏は16歳で太平洋戦争に従軍し、終戦後は捕虜としてシベリア抑留を経験しました。帰国後は、冬期間出稼ぎに依存していた町の雇用情勢を改善しようと、昭和45年に家具製造を手掛ける同社を設立。以来、社是に掲げる「地域にとつてなくてはならない企業」であり続け、厳しい雇用情勢の中、現在も150人規模の雇用を

株式会社朝日相扶製作所の創業者で、現・同社相談役の阿部宗一郎氏(常盤)に対する名誉町民称号の授与式が12月7日創遊館で行われました。町や各関係機関の代表者、同社関係者など約350人が出席し、氏の偉大な功績をたたえとともに、受称を祝福しました。

阿部宗一郎氏 名誉町民に 歴代6人目

【功績】

◆産業の振興に関する貢献

社会問題となっていた冬期間の出稼ぎ問題に関し、解消を図るべく自ら会社を設立し、地域の雇用を創出。さらに地域振興のため「朝日町地域開発研究会」「工業振興協議会」の設立と運営を強力にリード。地域産業の発展に大きく貢献しました。

◆教育・芸術文化の振興に関する功績

昭和40年より「朝日町芸術文化協議会」の会長として23年間にわたりその重責を果たし、町民憲章の制定、生涯教育・学習の町あさひ宣言の制定に尽力しました。昭和57年より西五百川小学校に「宗生文庫」を創設し、児童の読書推進活動を支援。また、小中学生を対象にした「ひめさゆり俳句大会」を主宰し、後進の指導育成にも尽力しました。

【略歴】

- 大正12年6月生まれ
- 昭和12年3月 西五百川尋常高等小学校卒業
- 昭和16年3月 志願兵として関東軍に編入
- 同 20年 シベリア抑留生活
- 同 24年11月 復員。その後家業に従事
- 同 38年5月 朝日町議会議員(同42年4月まで)
- 同 45年8月 株式会社朝日相扶製作所設立
- 代表取締役社長(平成7年1月まで)
- 平成7年2月 同 代表取締役会長(同21年2月まで)
- 同 21年3月 同 相談役(現在まで)

【団体歴】

- 昭和40年6月 町芸術文化協議会会長(昭和63年3月まで)
- 同 47年4月 町地域開発研究会会長(平成11年3月まで)

【その他の経歴】

- 昭和37年4月 町社会教育委員(同61年3月まで)
- 同 41年4月 町文化財保護委員(平成3年3月まで)

【受賞歴】

- 平成16年5月 山形県詩人会賞受賞
- 同 17年1月 真壁仁・野の文化賞
- 同 17年11月 斎藤茂吉文化賞受賞
- 同 17年11月 朝日町民栄誉賞
- 同 19年5月 山形県芸術文化協議会賞
- 同 22年11月 文部科学大臣表彰 地域文化功労者受賞

▶詩集「神ニモマケズ(H15年)」。齋藤茂吉文化賞など、数々の賞を受賞するきっかけとなった作品



◀昭和60年頃の阿部氏(会社にて)